

アジア フェスティバル

アジアの「魂」のびびき...

市民の劇場へ一五三

企画/構成 岐阜市文化センター・岐阜市民会館

バリ島巨大竹製アンサンブル

ワークショップ

8月24日(水)午後1時
長森北小学校体育館へ無料

「スモール・アグン」公演

公演

8月25日(木)午後6時30分
文化センター催し広場

アジア映画の夕べ

—文化センター小劇場—

9/5(月)午後6時 イラン映画「ぎくろと笛」・韓国映画「アタダ」 7000円
9/13(火)午後5時30分 タイ映画「クラスメイト」・香港/台湾合弁映画「客途秋恨」 7000円
9/24(土)午後6時 中国の琵琶演奏と映画「乳泉村の子」 10000円

ヴェトナムの民衆オペラ

「チェオ」初来日公演

10月5日(水)午後6時30分 文化センター小劇場

一般 2000円・学生 1000円(当日500円増し)

《全自由席》

主催 岐阜市

日本インドネシア文化交流会(スモール・アグン公演)

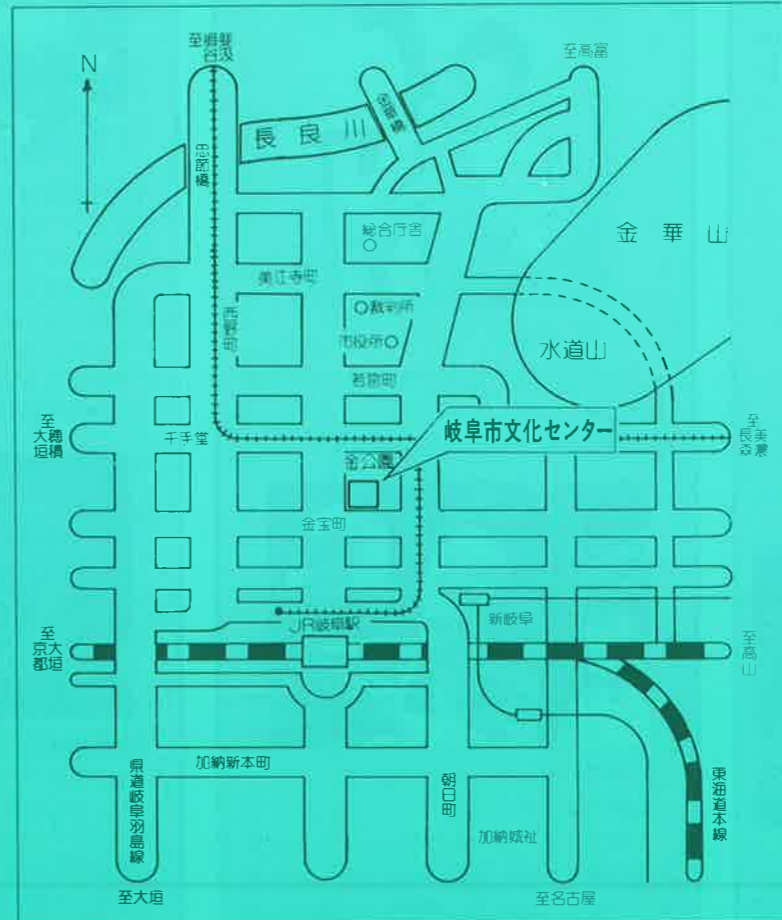
国際交流基金アセアン文化センター・朝日新聞社(チェオ公演)

後援 外務省・インドネシア大使館・ヴェトナム社会主義共和国大使館

岐阜県教育委員会・岐阜県国際交流センター

お問い合わせ先 岐阜市文化センター(0582-62-6200) 岐阜市民会館(0582-62-8111)

会場への案内



Gifu City Culture Center
5-7-2 Kogane-machi, Gifu-City
10 min. from
Gifu Sta. (JR)
Shingifu Sta. (Meitetsu)

※止むを得ず、プログラム・出演者に変更がある場合はご了承ください。

アジア・フェスティバル'94 スケジュール

アジアの〈魂〉のひびき……

ヴェトナムの民衆オペラ 「チェオ」初来日公演

10月5日(水) PM6:30
文化センター小劇場

「チェオ」は、ヴェトナムに現存する最も古い民衆音楽劇。

出演：ヴェトナム・タイビン省 チェオ劇団。

演目：「ティ・キン観音」

封建時代に生きた女性ティ・キンの苦難の人生をコメディと権力への揶揄を交えて生き生きと描く物語で、遠い昔から人々の間で語り継がれている。

ヴェトナム口承文学の最高傑作。



前売り＝一般2,000円 学生1,000円
〈当日券・500円増〉

中国 琵琶演奏

〈中国映画〉 にゅう せん むら 乳泉村の子

9月24日(土) PM6:00
文化センター小劇場



奏者「焦 建敏」
中国浙江省青年伝統音楽コンクール金賞受賞。

西湖のほとりからふたたび来日!



「乳泉村の子」 1991年 121分
監督／シェチン

中国の大地に残された幼い日本人の生命。国境を越えて描く感動の人間讃歌。日本ロケも行われ、日本人の母親役で栗原小巻が初めて老け役に挑戦した。

前売り(一般・学生共) 1,000円

〈タイ映画〉 クラスメイト

〈香港・台湾合作映画〉 きやく と しゅう こん 客途秋恨

9月13日(火) PM5:30
文化センター小劇場



「クラスメイト」 1990年 123分
監督／バンディット・リッタコン
東南アジア映画祭参加作品。

女子高校のクラスメイトたちが次第にそれぞれの人生に分かれていく様を中心に、タイの国民的美少女チンタラー・スカバットが新人リポーターに扮して夜のバンコクの乱れた性風俗を追及してゆく。



「客途秋恨」 1990年 100分
監督／アン・ホイ

アジア太平洋映画祭グランプリ受賞、イタリア・リミニ映画祭グランプリ受賞。
客途秋恨とは、異郷に住む人の望郷という意味。日本人の母と中国人の父のもとで生れた女流監督アン・ホイの自伝的要素と心情が、全編に色濃く塗込められている秀作。

前売り(一般・学生共) 700円

〈イラン映画〉 ざくろと笛

〈韓国映画〉 アダダ

9月5日(月) PM6:00
文化センター小劇場



「ざくろと笛」 1989年 86分
監督／サイド・エブラヒミファル
徹底して美しく哲学的な画面、劇的なナレーションを排した構成で、ある男の誕生・生活・死を描くことによっていつまでも続く人間の生と死の連環の重要なテーマを示唆する。



「アダダ」 1987年 118分
監督／イム・グオンテク

モントリオール世界映画祭主演女優賞受賞、第4回東京国際映画祭アジア秀作映画週間出品作品。社会の因習と、「金」に目が眩んだ周囲の人々に翻弄されていくひとりの女・アダダの姿を描いていく。

前売り(一般・学生共) 700円

バリ島巨大竹製アンサンブル 「スアール・アゲン」公演

〈ワークショップ〉
8月24日(水)PM1:00 長森北小体育館
〈公演〉
8月25日(木) PM6:30
文化センター催し広場

神々の住む島、バリが生んだ巨大竹製打楽器アンサンブル「ジェゴグ」

大地を揺るがす
重低音の迫力!



前売り＝一般2,500円 学生1,000円
〈当日券・500円増〉

スアール・アグン

SUAR AGUNG

バリ島巨大竹製打楽器アンサンブル



Photo: KOH OKABE

8/25(木)

岐阜市文化センター催し広場

GIFU CITY CULTURE CENTER Cosmo Hall

一般¥2,500・学生¥1,000(全席自由)

(※当日は¥500増し)

18:00開場・18:30開演

8/24水 13:00 長森北小学校(無料)

ワークショップ・スアール・アグンのリーダーによるバリ文化の話し・バリ舞踊の直接指導

主催/岐阜市・日本インドネシア文化交流会

後援/インドネシア大使館・岐阜県教育委員会・岐阜県国際交流センター

制作協力/カンパゼーション

お問合せ/岐阜市文化センター(0582)62-6200 岐阜市民会館(0582)62-8111



ジェゴグ 神々の宿る島、バリが生んだ芸能JEGOG

インドネシア、バリ島西部ジュンブラナ県アガラ郡サンカル・アグン村に伝わる巨大竹製打楽器アンサンブル「ジェゴグ」。しばしば竹のガムランと表現されるジェゴグは、その中で最も巨大な竹を使った全体の基礎となる楽器の名前をジェゴグといい、その音が全体を特徴づけていることから音楽全体もジェゴグと呼ばれるようになった。ジュンブラナ地方が、地理的にバリ島の中心から120kmと遠く離れており、また大きく音をうねらす元となる巨大な竹が他の地方では採れないことなどから、バリ島以外の土地でジェゴグの本格的な演奏に触れる機会は、極めて稀なことである。

その巨大な竹の生み出す音は、大地を揺るがすほどの圧倒的な重低音。一糸乱れぬそのアンサンブルの迫力は圧巻である。かつて植民地時代にその伝統がほとんど完全に廃れてしまったが、それが約10数年前、20ほどあるジェゴグ・チームの中でも傑出した実力を持つこのスアール・アグン(SUAR AGUNG)のリーダー、イ・クトゥ・スウェントラ(I KETUT SUWENTRA)氏によって、ようやく復興された。ジェゴグ演奏の最大の魅力として、誰もが「ムバルン」をあげる。ムバルンとは「対決する」という意味をもち、11~12人で構成された2つのグループによる激しい競奏が繰り広げられる。

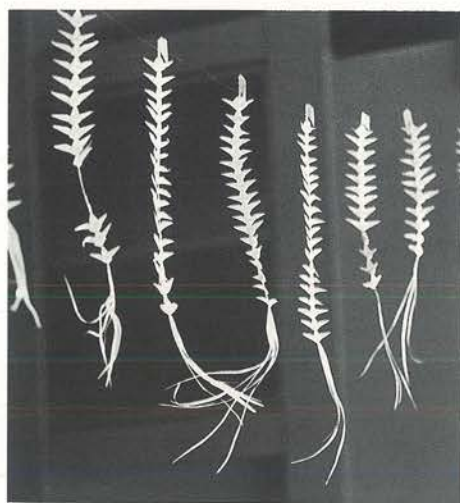
スアール・アグン

バリ島最強のジェゴグ・チーム SUAR AGUNG

1982年イ・クトゥ・スウェントラ氏を中心に結成。約300人はいるといわれる団員のほとんどが、農業に従事するごく一般的な人達で構成されている。このグループはジェゴグ以外にもゴン・クビヤール(ガムラン)、ジョゲ・ブンブン(小型竹製打楽器アンサンブルの伴奏による女性舞踊)の演奏スタイルを持つ。

スアール・アグン・チームのリーダー、イ・クトゥ・スウェントラ氏は、一時伝承が途絶えていたジェゴグの復興の指揮をとったのをはじめ、ジョゲ・ブンブンでも独自のスウェントラ・スタイルの踊りを確立、元々宮廷で楽しまれていたジョゲ・ブンブンも、現在では全バリ島の村々で踊られるようになった。

1982年、バリ島音楽舞踊コンクール第3位、84~86年インドネシア独立記念式典に出演するなど、活発な活動を続け、バリにおけるこの分野の最も優れたグループとして高い評価を得ている。



封建時代の女性、
ティ・キンの苦難の人生を
コメディと権力への
擲揄をまじえて
いきいきと描き出す
ヴェトナム口承文学の
最高傑作!

国際交流基金
アセアン文化センター
第10回企画・招聘公演



ヴェトナムの
民衆オペラ **チエオ** 初来日公演

ティ・キン観音 ヴェトナム口承文学の最高傑作
出演—ヴェトナム・タイビン省チエオ劇団

<153>市民の劇場

アジア・フェスティバル'94

◎公演

1994年10月5日(水) 午後6時30分

会場—岐阜市文化センター 小劇場

入場料—一般2000円/学生1000円
全席自由、いずれも当日は500円増

お問い合わせ—岐阜市文化センター(0582-62-6200)
岐阜市民会館(0582-62-8111)

For further information, call
Gifu City Culture Center (0582-62-6200)
Gifu Civic Auditorium (0582-62-8111)



◎主催—岐阜市+国際交流基金アセアン文化センター+朝日新聞社
◎後援—外務省+ヴェトナム社会主義共和国大使館+
岐阜県教育委員会+岐阜県国際交流センター
◎企画・構成—岐阜市文化センター

Gifu Civic Theater (No.153)
ASIAN FESTIVAL '94

CHEO Vietnamese Popular Opera
Performed by Thai Binh Cheo Group

October 5, 1994
at Gifu City Culture Center (Small Hall)
5-7-2 Kogane-machi, Gifu-City



ヴェトナムの
民衆オペラ

チエオ

初来日公演



チエオ

チエオはヴェトナムに現存する最も古い民衆音楽劇で、ヴェトナム北部で10世紀頃に発生し、17世紀頃に現在の形を確立したと言われます。

北部各地には、数名編成の家族的な劇団から40～50名編成の劇団まで、大小数えきれないチエオ劇団が存在しています。今回初来日するタイビン省チエオ劇団は、チエオ発祥の地とされるタイビン省最大の劇団で、

演目「ティ・キン観音」

「ティ・キン観音」は、封建時代に生きた女性ティ・キンの苦難の人生を描く物語で、遠い昔から人々の間で語り継がれ、ヴェトナムでは知らぬ者のない話です。チエオでは200年ほど前に初演され、以来、今日まで一番の人気出し物の座を占めています。

- 氣立でのよい娘ティ・キンは金持ちの息子に見初められ結婚しますが、夫の両親は、ティ・キンの実家の家柄が低いことが気に入らず、言いがかりをつけてティ・キンを追い出してしまいます。ティ・キンの悲しみは深く、仏に身を捧げることを決意します。女性が僧侶になれなかった封建時代のこと、ティ・キンはやむなく男性に身を変え、出家するのです。
- ところが、一身に修行に励むティ・キンの姿に村娘ティ・マオが惚れてしまい、あの手この手で口説きにかかります。ティ・キンが一向になびかないのを知るとティ・マオは村の男といい仲になり、子供を儲けてしまいます。
- 未婚の娘に子供ができたとはけしからんと、村の長老たちによる裁判が行われ、ティ・マオはあろうことか、赤ん坊がティ・キンの子だと申し立てます。しかしティ・キンはティ・マオの身を思い、真実を明かしません。ティ・キンは寺を追われ、一方、ティ・マオは赤ん坊を寺の前に捨て、どこかに去ってしまいます。



1959年に設立されました。タイビン省内だけでなくヴェトナム全土を巡演。また、1993年全国舞台芸術コンクールで金賞を授賞するなど、その実力は最高の評価を受け、86年のチェコスロバキア、ハンガリー、ブルガリア遠征でも大好評を博しました。近代化の波の中、チエオもまたさまざまな変貌を遂げていますが、同劇団は、チエオ揺籃の地を代表する劇団として、今もなお伝統的なスタイルを保ち続ける、希少な劇団です。

- ティ・キンは赤ん坊をひきとり、乞食をしながらも父親としてその子を育てます。ティ・キンが苦難の一生を終えた後、すべては明らかになり、ティ・キンは観音として祀られるのでした。

ティ・キンを男と信じて言い寄るティ・マオのコミカルな悪女ぶりは最大の見せ場で、本公演でも、芸達者女優の演技が冴えます。また、村の三長老——耳の聞こえない・教育係、口のきけない・道徳取締り役人、目の見えない・儀典係——によるとんちんかんな裁判の場は、墮落した上層階級を揶揄するものとして、常に人々の喝采を浴びる部分です。太鼓に銅鑼、胡弓、笛などが、賑やかに舞台を盛り上げます。



Gifu City Culture Center
5-7-2 Kogane-machi, Gifu-City
10min. from Gifu Sta. (JR) or Shingifu Sta. (Meitetsu)

